2027年6月期 第1四半期
決算説明資料

グリーンモンスター株式会社
証券コード：157A　（東証グロース市場）

2026年11月13日



©Green Monster Inc. All rights reserved

AGENDA

01 | エグゼクティブサマリー 03

02 | 27/6期 1Q決算概要 08

03 | カンパニーハイライト 19

04 | 業績及び主要KPIの推移(Fact Book) 35

01

エグゼクティブサマリー



業績ハイライト

27/6期 1Q サマリー

売上高	営業損失	受注残※1（資産形成支援事業）
523 百万円	**△66** 百万円	**534** 百万円
YoY +1.4%／通期計画進捗率 21.9%	通期計画△343百万円の範囲内	26/6期末 376百万円（QoQ +41.9%）

- 売上高は前年同期比で微増、営業損失は通期計画の範囲内で推移しており、通期業績予想は据え置く。
- 資産形成支援事業が全社売上高の過半（52.2%）を占め、売上高の柱が入れ替わりつつある。
  また、当社が重視する先行指標で、**今後順次売上高に計上される受注残が積み上がり始めている**。
- 金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業の**施策第1弾は2026年内リリースに向け計画通り開発中**。

トピックス

1. 9月29日開催の定時株主総会を経て、監査等委員会設置会社へ移行。新経営体制が発足。
2. 10月1日より、TVアニメ「FX戦士くるみちゃん」と「FXなび」のタイアップを開始。
   アニメを入口に、投資未経験層との接点を広げる。

※1　受注残は、資産形成支援事業を対象とした当社の管理指標で、四半期末の前受金（契約負債）残高。サービスの提供に合わせて、順次売上高に計上される。

©Green Monster Inc. All rights reserved

事業別の1Q実績

事業別の実績 ※1

1Q（26年7月-9月）実績

❶体験型投資学習事業

グループの集客装置

送客の質を重視し、減収幅を縮小

- 株プレ※2を起点に、**株たすの売上高が大きく伸長。**

※2　株プレ：条件を満たしたユーザーに実際の株式を贈呈する当社の企画（2026年6月に特許取得）。株式を保有する体験につなげ、投資デビューを後押しする。

- 一方、FXなびの減収により体験型投資学習事業の売上高は249百万円（YoY △30.3%）。

アプリ別の状況　FXなび **141百万円**（YoY △51.8%）　株たす **88百万円**（YoY +138.9%）

❷資産形成支援事業

グループのLTV向上装置

M&A・クロスセルで高成長を継続

- 売上高273百万円（YoY +86.2%）。FFC社の連結寄与で**高成長が継続。**
- 全社売上高の過半（52.2%）を占める事業に成長し、全社の売上高の構成が変化。
- 受注拡大局面では、顧客獲得費用が先行するため利益は売上高に遅れて表れる。

❸金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業

グループの成長ドライバー

施策第1弾を年内リリース、
27/6期下半期に収益化開始を計画

- 9月に金融ソリューション事業を譲受し、施策第1弾の**技術基盤と開発体制を強化。**
- 施策第1弾は**2026年内のリリースに向けて計画通り開発中。**

M&A

事業成長に向けた手段

自己資金・借入等を活用して継続し、
規模の大型化にも挑戦

- FPC社・FI社・FFC社に続き、**9月にSound-FinTech社より金融ソリューション事業を譲受。**
- M&Aで加わった事業が**❷資産形成支援事業の成長を支える。**

※1　2026年9月28日公表の「事業計画及び成長可能性に関する事項」で示した役割・方針に基づく。

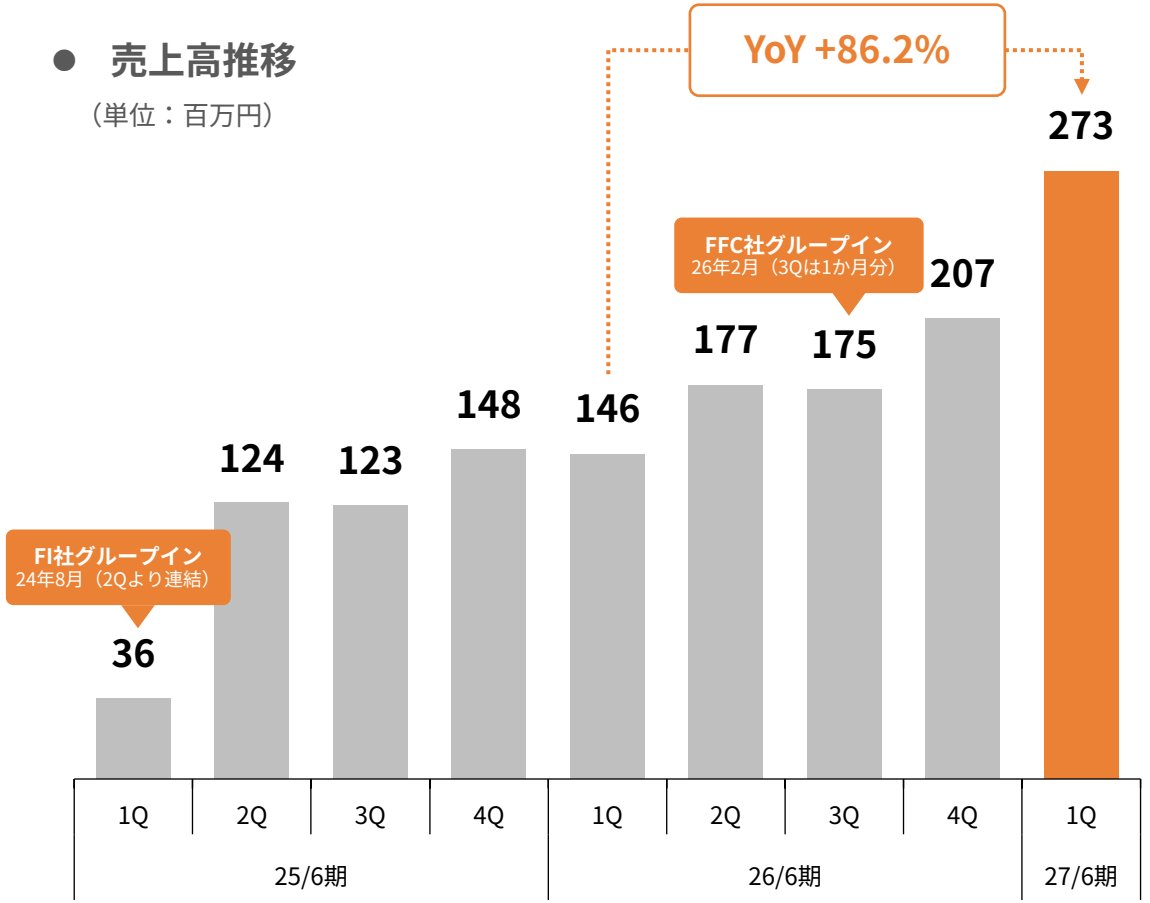
©Green Monster Inc. All rights reserved

資産形成支援事業｜売上高と受注残・受注高※1

当事業は売上高273百万円(YoY +86.2%)と全社の柱へ成長し、受注残は534百万円(QoQ +41.9%)となった。FFC社は主な講座の受講料を約3年かけて売上高に計上する。受注開始から日が浅く※2、受注残は積み上がりの途中である。

● 売上高推移

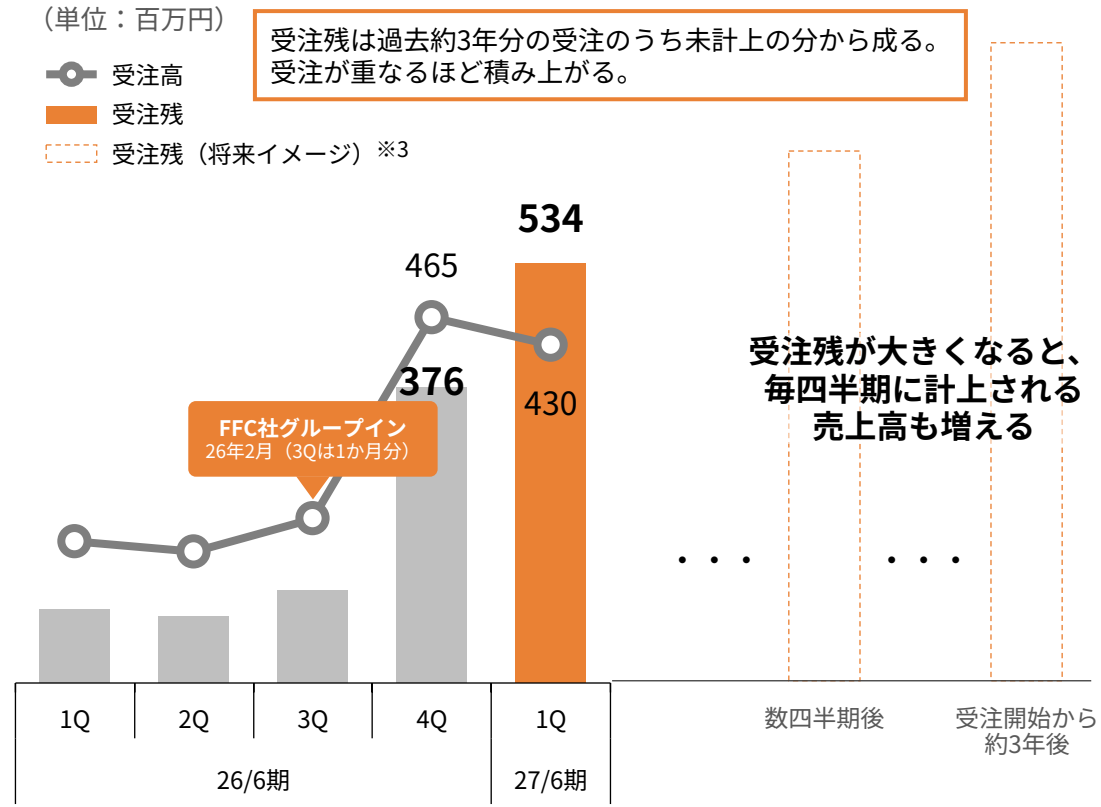
（単位：百万円）



● 先行KPI｜受注残・受注高推移

（単位：百万円）

受注残は過去約3年分の受注のうち未計上の分から成る。
受注が重なるほど積み上がる。



※1　受注残・受注高は、資産形成支援事業を対象とした当社の管理指標。受注残は四半期末の前受金（契約負債）残高で、サービスの提供に合わせて、順次売上高に計上される。
受注高＝当四半期末の受注残＋当四半期の売上高－前四半期末の受注残。
※2　FFC社は事業譲受（2026年2月）にあたり新設した会社で、受注残を引き継いでいない。
※3　受注残（将来イメージ）：グラフの右2本は、仕組みを示すイメージであり、当社の見通しではない。

©Green Monster Inc. All rights reserved

KPI｜ユーザー数 × 1人あたりLTVの進捗

全社売上高（＝ユーザー数×1人あたりLTV）は523百万円（YoY +1.4%）。ユーザー数はアプリ累計1,110万DLまで拡大し、1人あたりLTVは❷資産形成支援事業のクロスセルで積み上げる。

売上高
売上高成長率を重視

＝

ユーザー数
❶で創出

×

1人あたりLTV
主に❷❸で積み上げ

ユーザー数

アプリ累計ダウンロード数
1,110万DL

2026年9月末
27/6期1Q：28万DL

↗

投資デビュー支援数（送客数）
約32万件

21/6期～27/6期1Q
27/6期1Q：9,318件

↗

1人あたりLTV

❷による商材拡充、❸による新規接点の創出とLTV深化

❶ **体験型投資学習事業（FXなび・株たす）**
- 1Q売上高 249百万円（YoY △30.3%）
- 1Q平均報酬単価 24,854円

❷ **資産形成支援事業（子会社：FPC・FI・FFC）**
- 1Q売上高 273百万円（YoY +86.2%）
- 1Q受注残 534百万円（QoQ +41.9%）、受注高 430百万円
- 1Qにおける❶→❷及び子会社間でのクロスセル※1 16百万円

❸ **金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業**
- 施策第1弾『次世代型オンチェーン金融取引体験プラットフォーム』
  - 2026年内リリースに向け計画通り開発中
  - 27/6期下半期に収益化開始を計画

※1　クロスセル額は、❶から❷への送客及び子会社間の相互送客に伴い、グループ内で受け渡した紹介手数料等の内部取引の金額。送客先でユーザーが支払った受講料等の金額ではない。

©Green Monster Inc. All rights reserved

02

27/6期 1Q
決算概要



2027年6月期 第1四半期業績サマリー（連結）

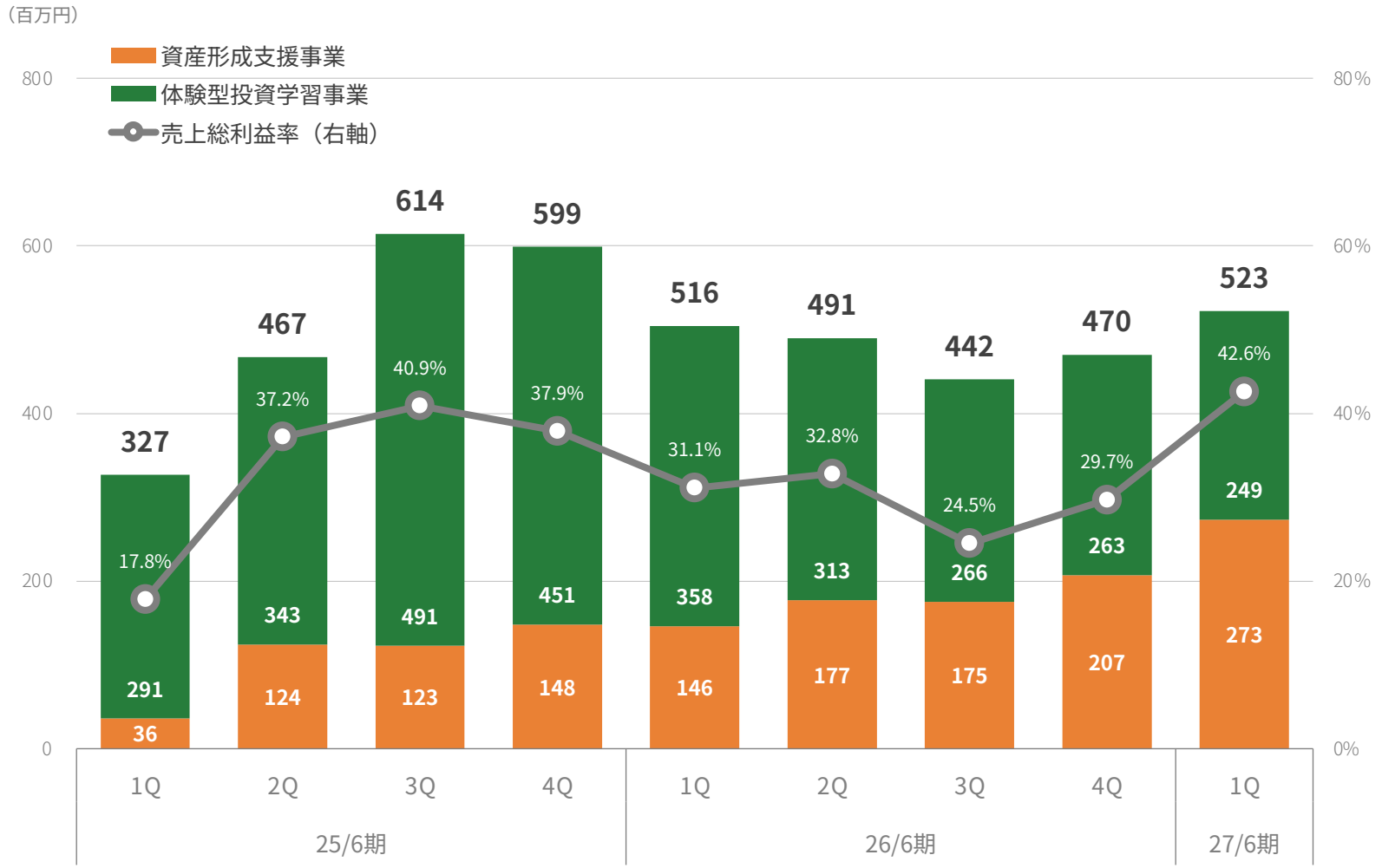
売上高は523百万円（YoY +1.4%、通期計画進捗率21.9%）。資産形成支援事業がYoY +86.2%と伸長し、全体を牽引。新規事業への先行投資等により営業損失66百万円を計上したが、通期計画の範囲内。

（百万円）	27/6期1Q 四半期 (26年7月-9月) 実績	増減率		27/6期 通期計画	進捗率	過去実績	
		QoQ （前四半期比）	YoY （前年同期比）		通期計画比	26/6期1Q四半期 （前年同期）	26/6期4Q四半期 （前四半期）
売上高※1	523	+11.2%	+1.4%	2,386	21.9%	516	470
└体験型投資学習事業	249	△5.2%	△30.3%	1,097	22.8%	358	263
└資産形成支援事業	273	+31.7%	+86.2%	1,288	21.2%	146	207
└金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業	0	-	-	-	-	-	-
売上総利益	222	+59.4%	+38.6%	972	22.9%	160	139
EBITDA	△46	-	-	△271	-	2	△139
営業損失（△）	△66	-	-	△343	-	△13	△162
営業利益率	-	-	-	-	-	-	-
経常損失（△）	△65	-	-	△348	-	△11	△164
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△73	-	-	△413	-	△41	△250

※1　全社の売上高には、報告セグメントに含まれない「その他」（広告代理業）の売上高を含む。

©Green Monster Inc. All rights reserved

全体｜売上高・売上総利益率（四半期推移）



● 27/6期1Q（26年7月-9月）実績

売上高	売上総利益率
523百万円	42.6%
YoY +1.4%	YoY +11.4pt

資産形成支援事業はFFC社の連結寄与により、成長トレンドが継続。全体に対する割合も52.2%に上昇し、全社の柱となっている。

体験型投資学習事業は、送客の質を重視する運営を継続。

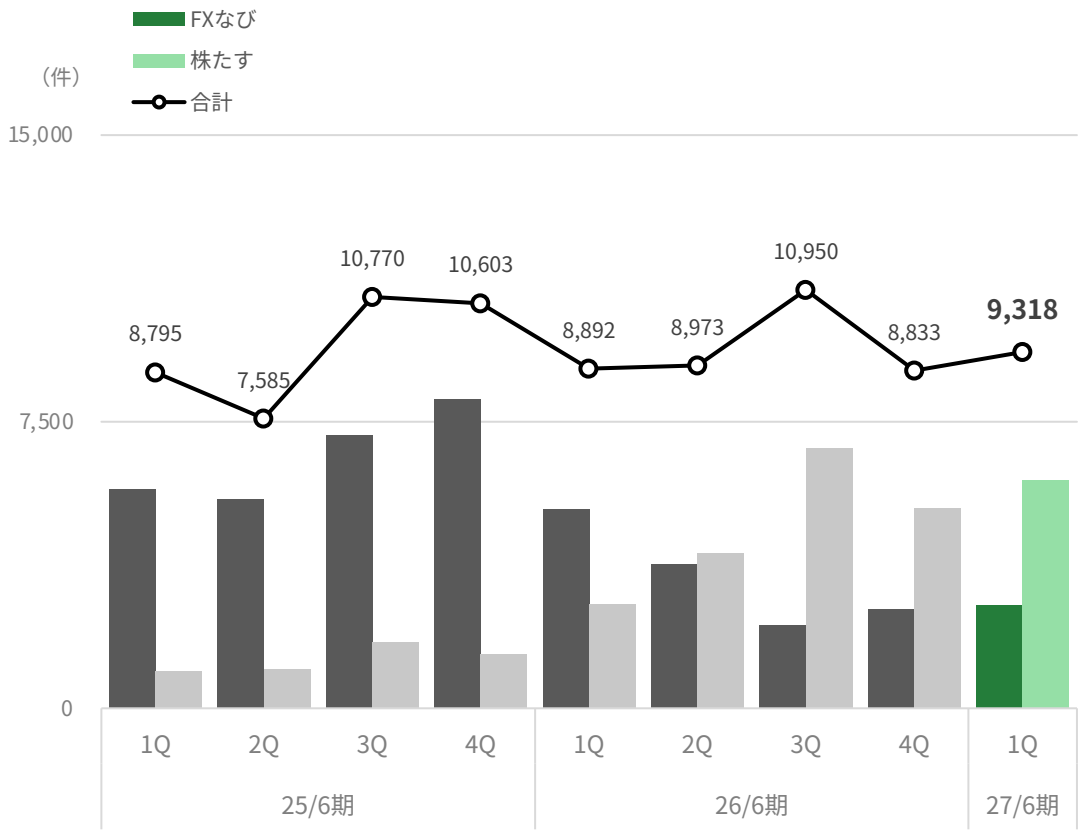
売上総利益率は42.6%（YoY +11.4pt）。売上総利益率の高い資産形成支援事業の構成比上昇が寄与。

©Green Monster Inc. All rights reserved

1 体験型投資学習事業｜主要KPI

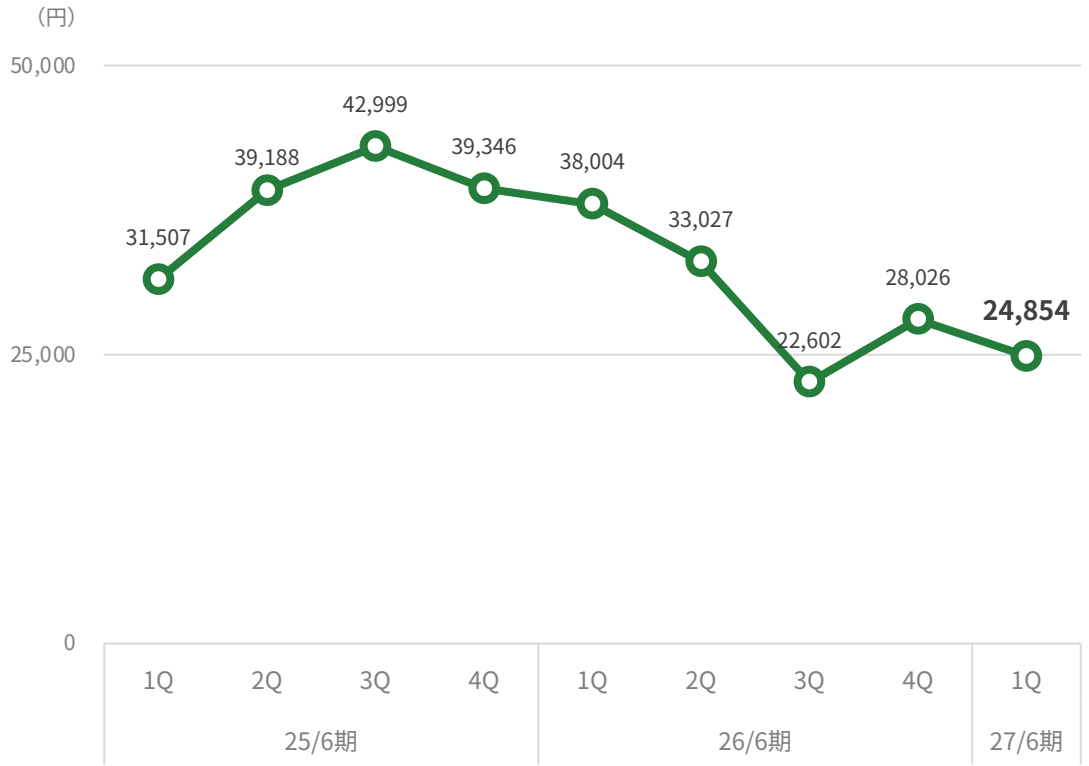
投資デビュー支援数は9,318件（YoY +4.8%）と前年同期を上回った。
平均報酬単価は、FXなびと株たすの構成比の影響で24,854円（YoY △34.6%）となった。

投資デビュー支援数



平均報酬単価※

※　平均報酬単価は、体験型投資学習アプリ全体の平均。報酬単価はアプリごとに異なるため、アプリ別の投資デビュー支援数の構成比によっても変動する。



©Green Monster Inc. All rights reserved

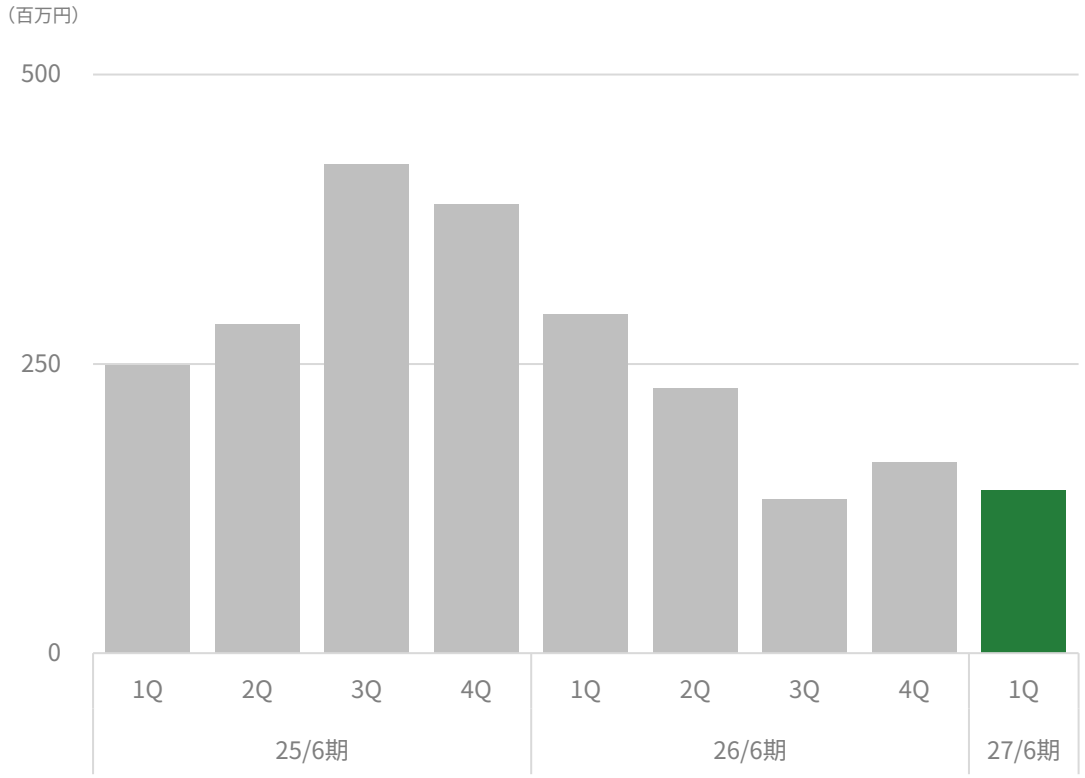
1 体験型投資学習事業｜主要アプリの売上高の四半期推移

積極的な拡大を目指す広告運用から、利益率を重視しコストコントロールする方針を継続。
「FXなび」の売上高は141百万円（YoY △51.8%）、「株たす」は株プレ起点で88百万円（YoY +138.9%）。

FXなび

27/6期1Q（26年7月-9月）実績

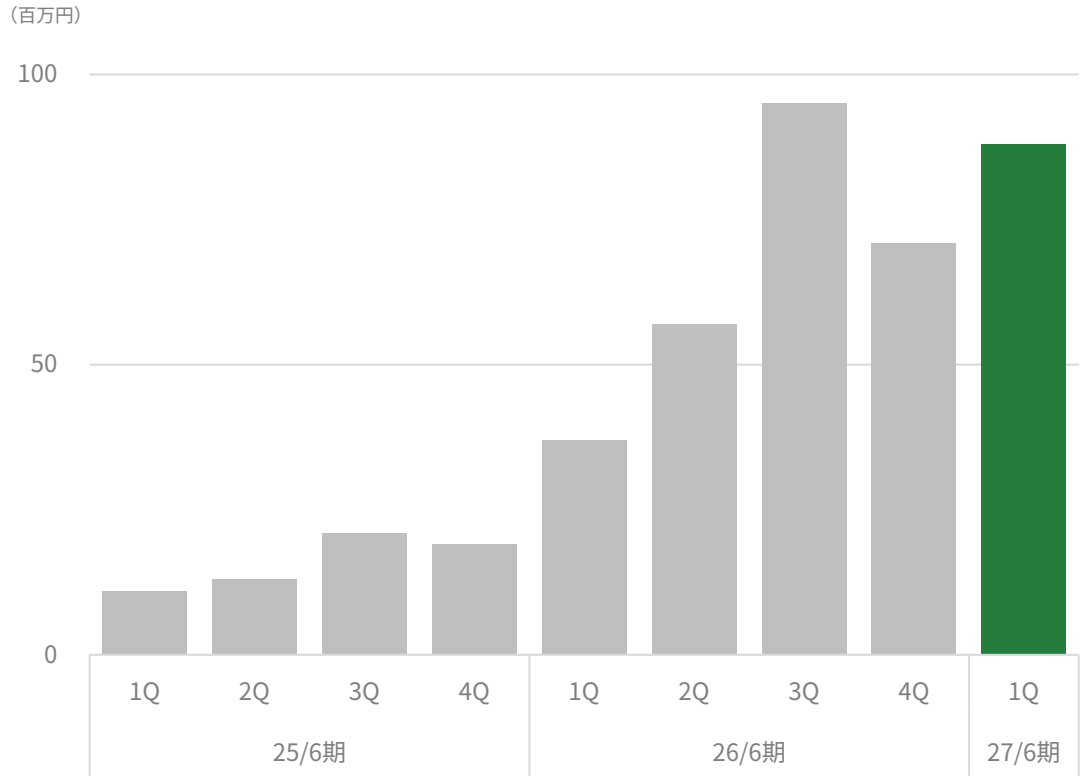
売上高 **141**百万円



株たす

27/6期1Q（26年7月-9月）実績

売上高 **88**百万円

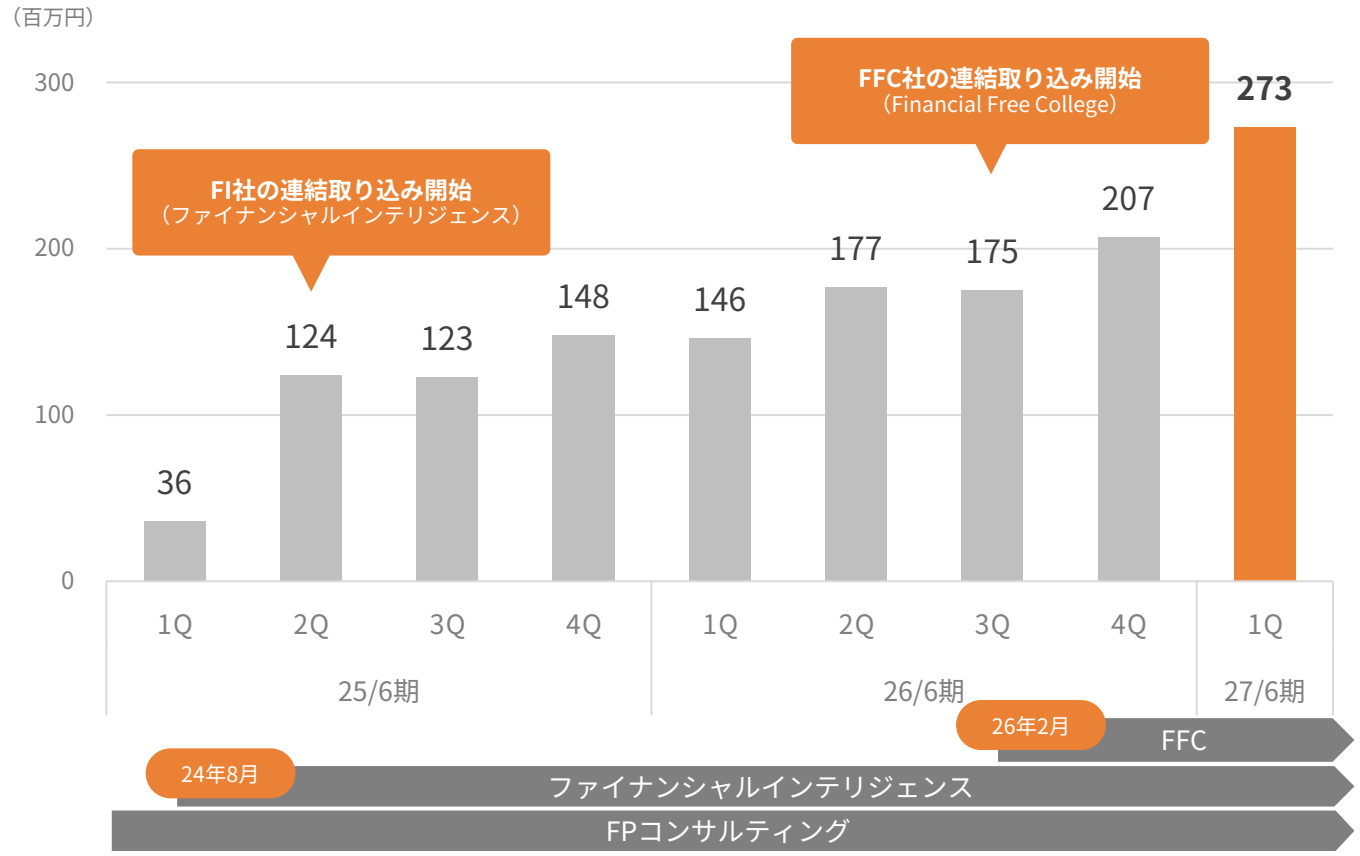


©Green Monster Inc. All rights reserved

2 資産形成支援事業｜主要KPI

資産形成支援事業の売上高は273百万円（YoY +86.2%）と伸び、FFC社の連結寄与による拡大が継続。
全社売上高の52.2%を占める。先行KPIの受注残は534百万円（QoQ +41.9%）、受注高は430百万円。

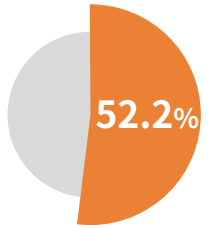
売上高（四半期推移）



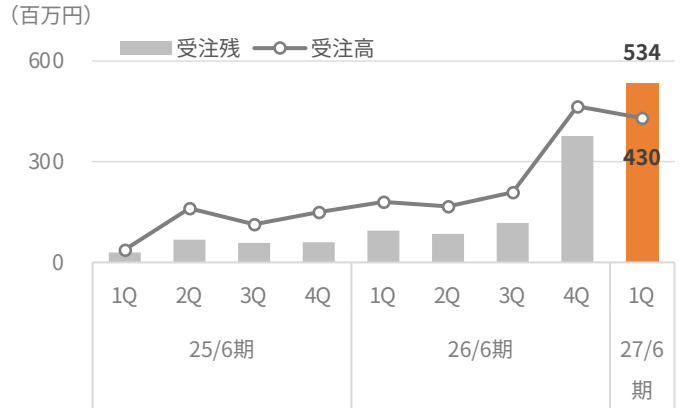
27/6期1Q（26年7月-9月）

売上高
273百万円

全体の売上高に対する割合



受注残・受注高（先行KPI）※1

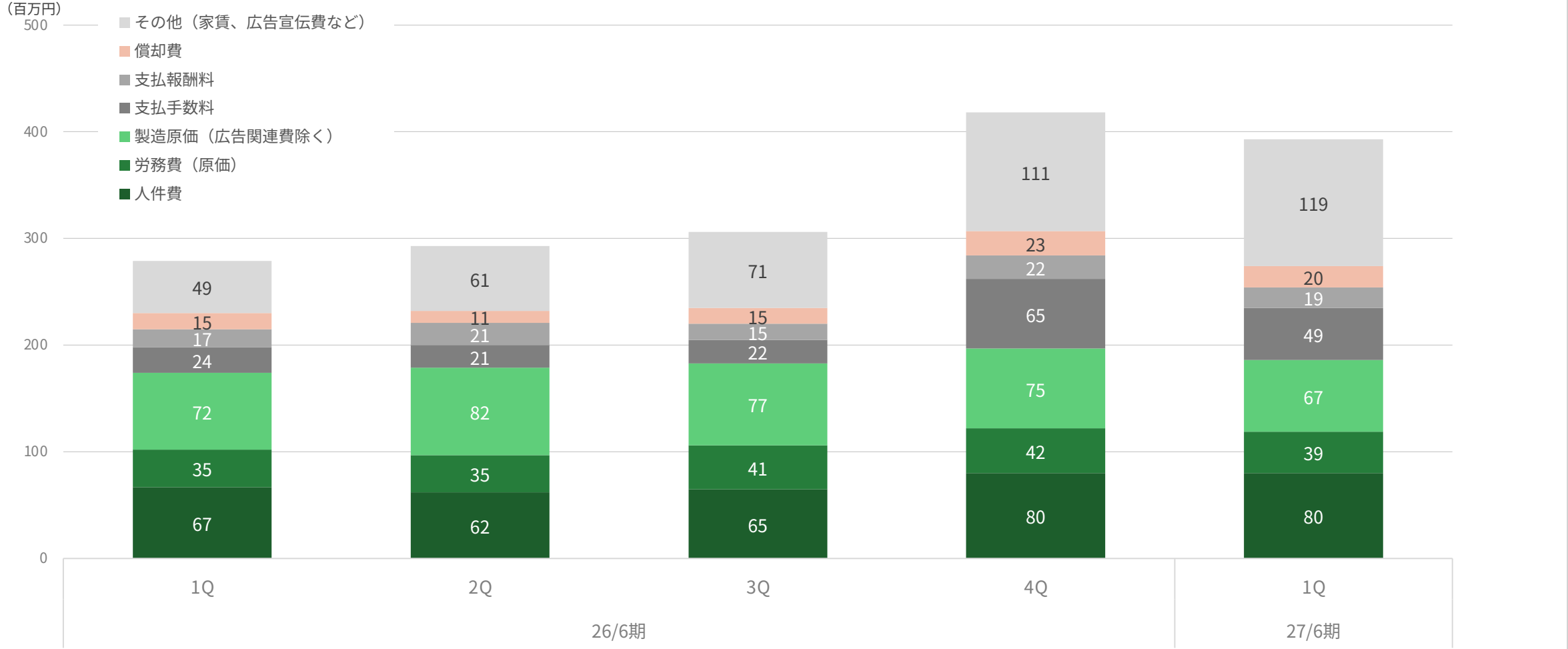


※1　受注残・受注高の定義はP6の注記を参照。

©Green Monster Inc. All rights reserved

全体｜固定費（広告関連費を除く原価及び販管費）の四半期推移

新規事業への先行投資とガバナンス・組織強化費用、及びFFC社の連結によるコスト増加により、固定費は396百万円（YoY +40.6%）。前四半期に含まれた資金調達関連等の一過性費用（約20百万円）は剥落。



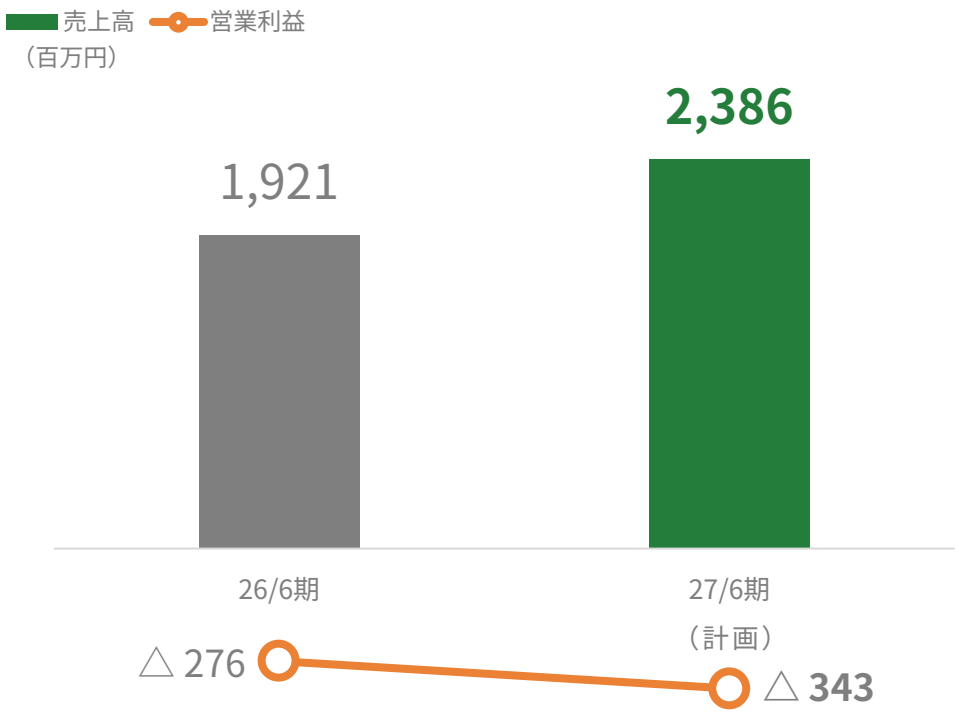
©Green Monster Inc. All rights reserved

27/6期 通期計画と1Q進捗

通期計画（8月14日公表）は据え置き。1Qの売上高の進捗率は21.9%、売上総利益の進捗率は22.9%。
営業損失は66百万円と通期計画（営業損失343百万円）の範囲内。売上高は下半期にかけて伸びる計画。

	通期計画	27/6期	
		1Q実績	進捗率
売上高	2,386	523	21.9%
└体験型投資学習事業	1,097	249	22.8%
└資産形成支援事業	1,288	273	21.2%
└金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業	―	0	―
売上総利益	972	222	22.9%
EBITDA	△271	△46	―
営業損失（△）	△343	△66	―
営業利益率	―	―	―
経常損失（△）	△348	△65	―
親会社株主に帰属する当期純損失（△）	△413	△73	―

業績予想については、収益において不確実性が高い新規事業等は見込まない一方、
費用については最大限発生する前提としております。



株主還元方針

中長期的な企業価値向上が株主価値の最大化に繋がると考え、
成長投資を優先する観点から、無配を予定しております。

©Green Monster Inc. All rights reserved

トピックス（1/2）｜金融ソリューション事業の譲受

金融ソリューション事業の譲受により、❸金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業の施策第1弾の開発基盤を拡充。リリースと、その後の機能拡張のサイクルを早める。

譲受の概要

項目	内容
譲受元	株式会社Sound-FinTech
対象事業	FinTechを活用した金融ITコンサルティング及び金融工学システムの構築
譲受資産	営業権・知的財産権などの無形資産を中心に、事業運営に必要な資産
主な実績	金融機関向けポートフォリオ提案ツール、ライフプランシミュレーションツール等
日程	契約締結 2026年8月31日 ／ 事業譲渡実行 2026年9月1日

狙い：開発基盤を広げる3つの効果

1 技術基盤の獲得

金融工学・データ分析のシステム構築ノウハウを取り込み、施策第1弾「次世代型オンチェーン金融取引体験プラットフォーム」の開発に直結させる。

2 開発体制の国内集約

海外の開発リソースを活用してきた開発体制から、AIを活用した国内完結型の開発体制への移行を進め、開発・改善サイクルを短縮する。

3 グループ全体の開発力の引き上げ

金融工学・システム構築の知見をグループ全体に活かし、開発力を底上げする。
金融機関向けシミュレーションツールの事業も引き継ぎ、提供を継続する。

©Green Monster Inc. All rights reserved

トピックス（2/2）｜監査等委員会設置会社への移行と新経営体制※1

									
氏名	**ワン ウィリアム** William Wang	**小川 亮** Akira Ogawa	**藤沢 亜理沙** Arisa Fujisawa	**渡邊 竜士** Ryushi Watanabe	**軒名 彰** Akira Nokina	**ラバリア ライアン** Ryan Rabaglia	**宮腰 哲也** Tetsuya Miyakoshi	**河村 敦志** Atsushi Kawamura	**柚木 庸輔** Yosuke Yunoki
役職	代表取締役会長	代表取締役社長	取締役	取締役	社外取締役	社外取締役	社外取締役 （常勤監査等委員）	社外取締役 （監査等委員）	社外取締役 （監査等委員）
特に期待するスキル※2									
企業経営・経営戦略	○	○			○	○			
専門性（金融教育）		○	○						
専門性（ブロックチェーン・AI）	○			○		○			
M&A・資本戦略	○	○			○				
財務・会計					○		○		○
法務・リスク管理								○	
IT・DX	○	○	○	○					
国際性	○			○		○			

※1　2026年9月29日開催の第13期定時株主総会において、「定款一部変更の件」「取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件」「監査等委員である取締役3名選任の件」が承認可決され、監査等委員会設置会社へ移行した。
※2　本表は、各役員が有する全てのスキル・知見を網羅的に示したものではなく、当社が各役員に特に期待する専門性を抜粋して記載している。

©Green Monster Inc. All rights reserved

03

カンパニーハイライト

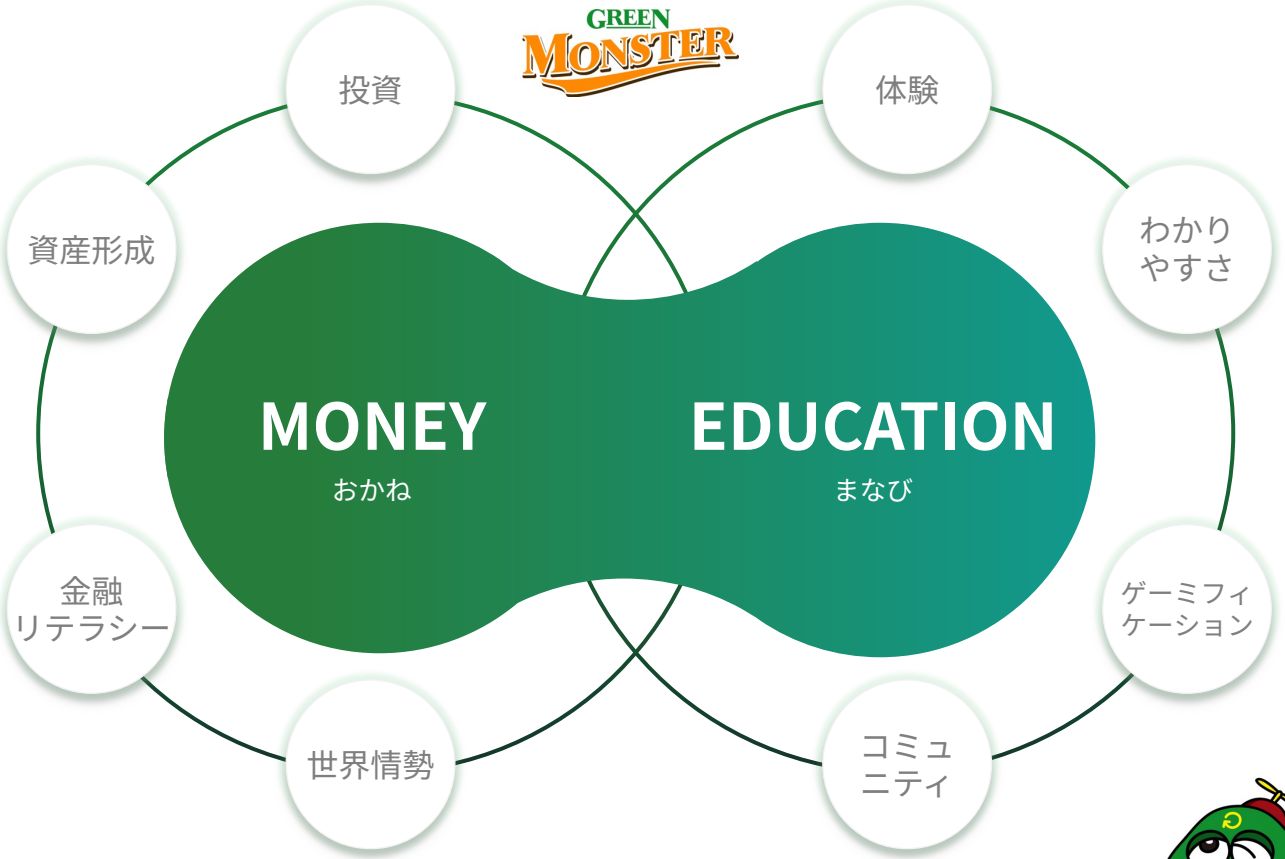
本章は、2026年9月28日公表の「事業計画及び成長可能性に関する事項」から抜粋して再掲しています。アプリ累計ダウンロード数など一部の数値は、2026年9月末時点に更新しています。



グリーンモンスターの事業ドメイン

おかねに対する

意識と行動を変える

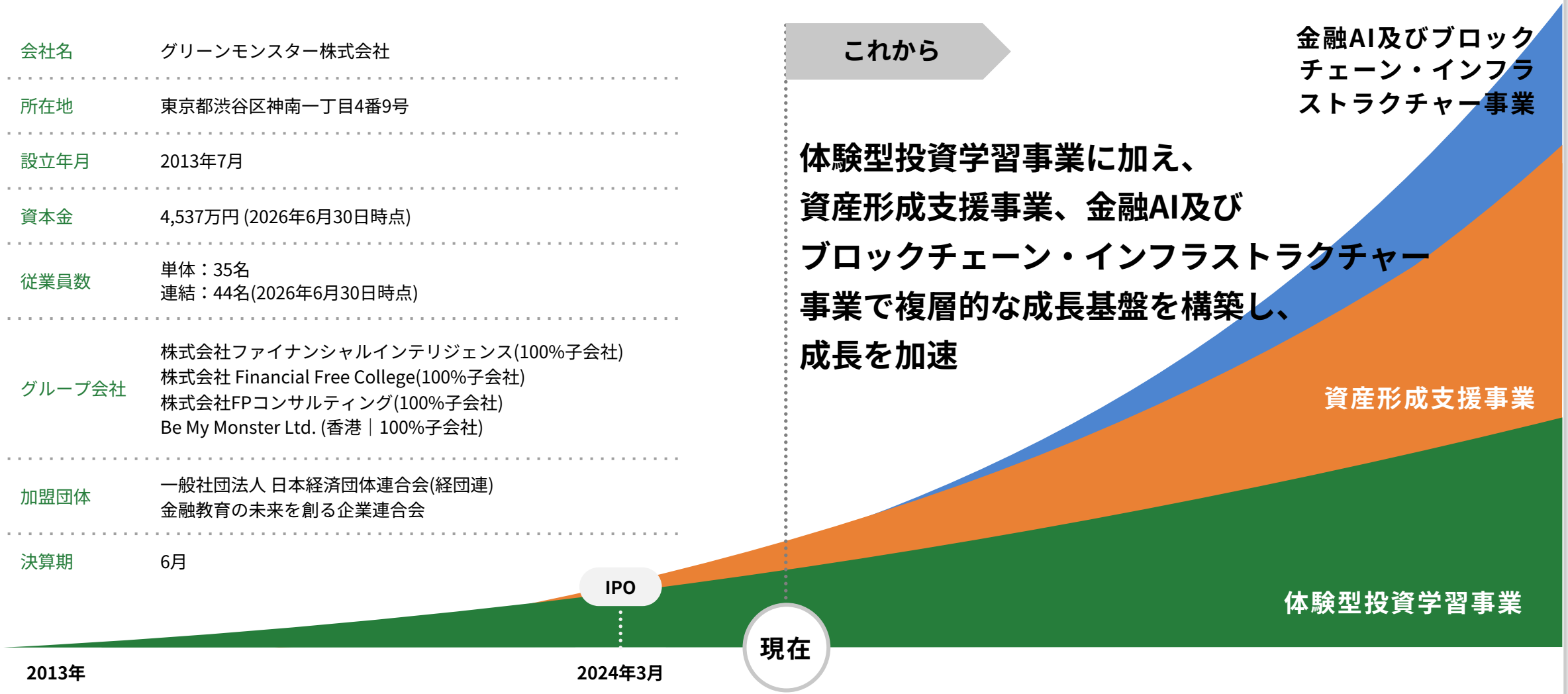




©Green Monster Inc. All rights reserved

基本情報、沿革

会社名	グリーンモンスター株式会社
所在地	東京都渋谷区神南一丁目4番9号
設立年月	2013年7月
資本金	4,537万円 (2026年6月30日時点)
従業員数	単体：35名 連結：44名(2026年6月30日時点)
グループ会社	株式会社ファイナンシャルインテリジェンス(100%子会社) 株式会社 Financial Free College(100%子会社) 株式会社FPコンサルティング(100%子会社) Be My Monster Ltd. (香港｜100%子会社)
加盟団体	一般社団法人 日本経済団体連合会(経団連) 金融教育の未来を創る企業連合会
決算期	6月



©Green Monster Inc. All rights reserved

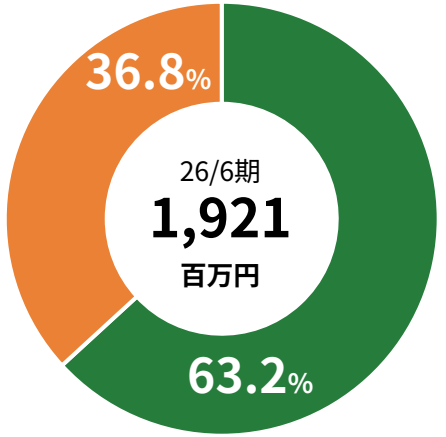
3つの事業の構成

当社は体験型投資学習事業と資産形成支援事業、金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業の3つで構成。提供している投資学習アプリは2026年9月末時点で累計1,110万ダウンロードを突破。

事業区分	サービス概要
1 体験型投資学習事業	**FXなび** 初心者向けに特化した体験型FX学習アプリ。為替取引の基本から実践的なトレードまでをアニメーションやクイズ形式で学べる。ユーザーが「遊びながら学べる」設計により、幅広い層のリテラシー向上に寄与。 **株たす** 仮想資金による株取引を通じて、日本及び米国株投資の基礎～応用を疑似体験できるアプリ。株価の変動要因や企業分析の考え方を、実際の銘柄を通じて学習可能。中高生や若年層を中心に利用が拡大中。
2 資産形成支援事業	**FPコンサルティング（FPC）** 23年1月 グループイン 金融商品販売を前提とせず中立的な立場で資産形成を支援。大手企業の労働組合をターゲットとしたBtoBtoEモデルで、個社毎にカスタマイズしたセミナー・個別相談が可能。 **ファイナンシャルインテリジェンス（FI）** 24年8月 グループイン 個人向けに株式投資やFX投資の実践的なスキル習得講座を提供。「投資の学校プレミアム」は累計15万人が受講。 **Financial Free College（FFC）** 26年2月 グループイン 個人向けに株式投資の実践的なスキル習得講座を提供。累計受講者数6,000人以上。
3 金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業	2026年1月より新たな事業として準備中。 金融AI及びブロックチェーン技術を活用した新たな金融ソリューションの提供を目指す。

※　報告セグメントに含まれない「その他」（広告代理業）は、売上高が僅少であるため説明の対象から除いている。

売上高構成比（事業区分別）



体験型投資学習	1,213百万円
資産形成支援	707百万円

©Green Monster Inc. All rights reserved

1 体験型投資学習事業｜事業内容

老後2,000万円不足問題解消からFIRE支援まで、FXや株式投資を体験型で学習できるアプリを運営している。
リアルタイムの為替データや株価をもとに、ゲーミフィケーションを取り入れた実践的な取引体験が特徴。

アプリ一覧

本格FXチャートの投資シミュレーション体験

初心者でも簡単にFXゲームで練習できるアプリ。
リアルタイムな為替データを元にバーチャルで投資スタイルを検証できるアプリ。

リアル株価の株式投資シミュレーション体験

日米7,000銘柄以上に対応したリアルな株価で個別株投資体験ができるアプリ。

NISA & iDeCoの投資シミュレーション体験

毎月いくらずつ、何年積み立てるといくら貯まる？がすぐにわかる資産運用のシミュレーション体験ができるアプリ。

日本能率協会マネジメントセンターとの共同開発「NISAとiDeCo資産運用アドバンス」受講者専用アプリ。



©Green Monster Inc. All rights reserved

1 体験型投資学習事業｜累計ダウンロード数

「投資デビュー支援数」の先行指標として「アプリダウンロード数」も公表している。
2026年9月末時点で、累計ダウンロード数は1,110万を突破。

シリーズ累計

1,110万

ダウンロード突破

（2026年9月末時点）



アプリDL数拡大の背景

体験型で直感・実践的に学べる設計

SNSや動画アプリを中心としたマーケティング戦略

©Green Monster Inc. All rights reserved

2 資産形成支援事業｜事業内容

事業の概要

FPコンサルティング

BtoBtoEモデルの職域向け金融教育

個人向け直販ではなく、官公庁・自治体から上場企業、中小企業、労働組合、共済会まで幅広い団体と顧問契約を結ぶBtoBtoEモデル。契約先の職員・会員に対し、中立的な専門家ネットワークを通じたライフプランニング・資産形成の個別相談を提供する。

収益は顧問契約料×契約企業数で構成。

ファイナンシャルインテリジェンス

テクニカル分析中心の実践的売買教育

チャート分析などのテクニカル分析を軸に、実践的な売買スキルの習得に重点を置いた投資教育を提供。専門家による継続的なサポート体制のもと、独学では身につきにくい相場変動への対応力を養う。

収益は講座単価×受講者数で構成。

Financial Free College

FIREを目指す長期・ファンダメンタルズ投資教育

経済的自立(FIRE)の実現を目標に、ファンダメンタルズ分析を軸とした長期投資の教育を提供。米国株投資など、長期で資産を築くための知識・戦略を扱う点が特徴。

収益は講座単価×受講者数で構成。

ビジネスモデル



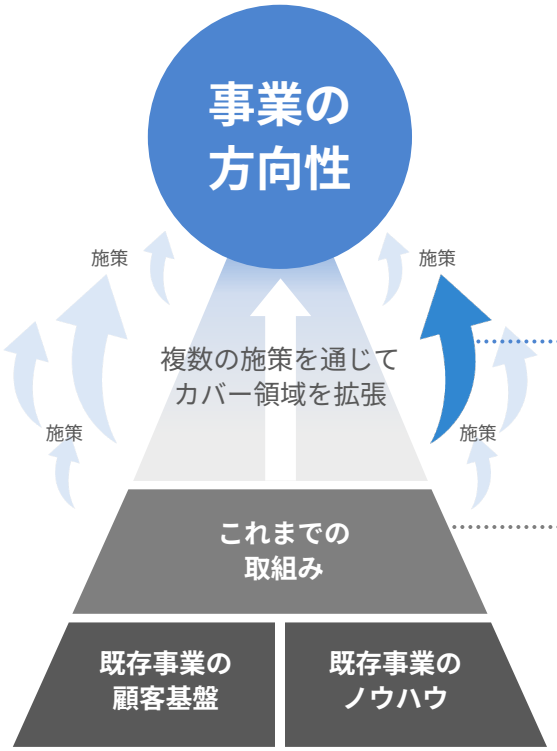
©Green Monster Inc. All rights reserved

③ 金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業（1/2）

既存事業の顧客基盤とノウハウを土台に、複数の事業を通じて段階的にカバー領域を広げ、本事業全体を次の成長ドライバーへ育てていく。

目的

新たな事業価値の創出と第2成長フェーズへの移行のため、金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業を成長戦略の中核の一つに位置付けている



金融AI及びブロックチェーンのバリューチェーン※1 ※2を事業領域と定め、複数の事業を通じて段階的にカバー領域を拡張する

※1 ユーザーに近いサービス層から、運用・決済、そして基盤となるトークン・インフラ層に至るまでの幅広い領域
なお、着手するレイヤーは固定的なものではなく、市場環境を踏まえて柔軟に選択する方針

※2 世界の金融市場では、既存の金融機関が規制準拠のトークン活用を進める一方、暗号資産ネイティブ企業が金融商品・サービスのイノベーションを牽引しており、この潮流は今後も継続すると当社は見ている

施策 第1弾

『次世代型オンチェーン金融取引体験プラットフォーム』を施策第1弾として2026年内にリリース予定

これまでの取組み

2026年1月	2026年6月	2026年7月	2026年7月	2026年9月
新規事業の立ち上げ・人事の公表	ガバナンスの整備（臨時株主総会）	香港子会社の設立	ファイナンスのリリース	金融ソリューション事業の譲受

©Green Monster Inc. All rights reserved

③ 金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業（2/2）

体験型投資学習事業で学んだユーザーが、実践段階でも学びを活かし、成果を実感できるように、**次世代型オンチェーン金融取引体験プラットフォーム**を展開し、学習から資産形成までを一気通貫で支援する。

施策 第1弾　次世代型オンチェーン金融取引体験プラットフォーム

オンチェーン技術を活用し、投資のシミュレーション・実践結果の可視化を通じて、デモ環境で安全かつ楽しくスキルを身につけられるアプリ・Webサービス
学んだ投資スキルを試し、評価を受けながら、成果を実感できる点が、既存サービスにはない差別化ポイント

目的

学習・準備を終えたユーザーが、実際に投資を始める段階でもグループ内でスムーズに次のステップに進めるよう、**学習から実践への橋渡しを自社サービス内で完結させることを目指す**

実際に投資を始める段階、実践的な投資知識・判断力を養う段階までを支援する

想定顧客

学習段階から実践段階へ移行しようとする層全体を、既存事業と接続しながら一貫して支援。エンゲージメント強化、グループ内送客、顧客生涯価値の向上を狙う。

- **「FXなび」「株たす」等の既存事業ユーザー**
- **資産形成支援事業の参加者**
- **投資未経験層・新規ユーザー**

● 段階的な展開方針とスケジュール

2026年内
本サービスリリース

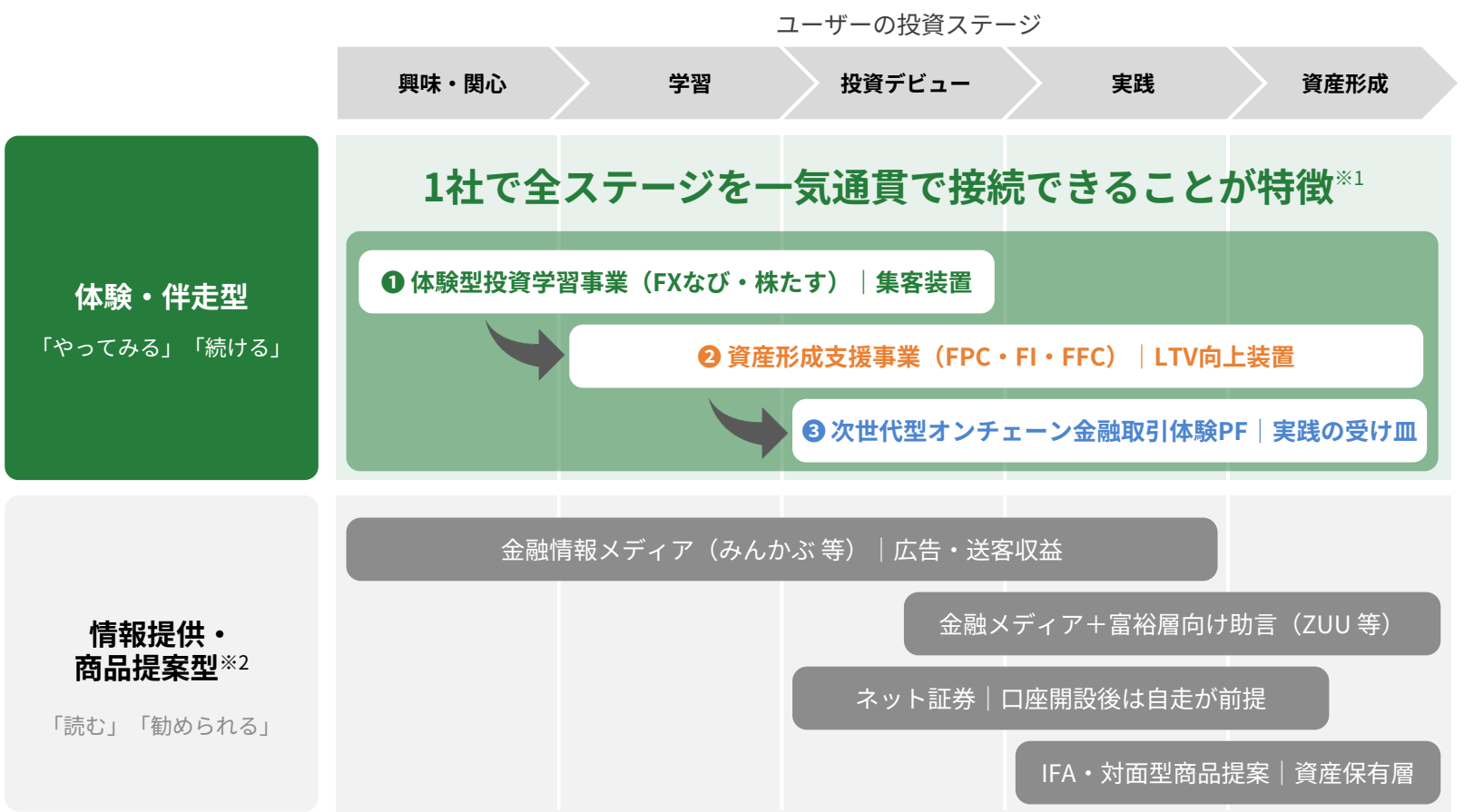
27/6期下半期
収益化開始を計画

以降、段階的に拡大
市場環境、関連法令・規制、技術の成熟度、利用者ニーズを踏まえ、機能・取引基盤を段階的にオンチェーン化

©Green Monster Inc. All rights reserved

独自のポジショニング

投資に興味はあるが踏み出せない層に、情報や商品ではなく"体験"を起点に学習から資産形成まで一気通貫で伴走する。金融情報メディアやIFAなど既存プレイヤーにはない独自のポジショニング。



既存プレイヤーとの違い

対象ステージ

興味～資産形成まで**一気通貫**。
口座開設で終わらず、実践段階の受け皿（❸）を自社で持つ。

接点の起点

情報・商品ではなく「体験」。
投資未経験・ライト層を初期段階から捉える（累計1,110万DL、26年9月末時点）。

収益の積み上げ

送客（❶）→受講（❷）→PF利用（❸）と、
ユーザーからの収益を段階的に積み上げLTV最大化。

顧客層

富裕層・資産保有層ではなく、これから資産形成を始めるマス層（NISA口座未開設者が約3/4と推計）。

※1　「次世代型オンチェーン金融取引体験PF」は2026年内にリリース予定。
※2　各社の位置づけは公開情報に基づく当社の整理であり、各社の事業全体を網羅的に示すものではない。

©Green Monster Inc. All rights reserved

当社が開拓していく市場

NISA口座を持つ人は成人の約4人に1人に拡大した一方、残る約3/4は未保有で、口座を開いても買付のない層も多い。当社はこの「投資を実践していない層」を体験で動かし、1人あたりLTVを積み上げていく。

TAM

18歳以上人口

約1.07億人

総務省 人口推計※1

SAM

投資を実践していない人口（NISA未保有層+NISA口座の未稼働層）

約8,900万人 ≒ 成人の約8割

18歳以上人口 - NISA口座数※2 + NISA未稼働（買付額ゼロ）口座数※2

SOM

うち投資意向のある層（NISA未保有の投資意向層＋NISA口座の未稼働層）

約2,660万人（推計）

NISA未保有人口 × 投資意向有割合※3 + NISA未稼働（買付額ゼロ）口座数

当社の接点｜アプリ累計DL 1,110万（26年9月末時点）・投資デビュー支援・受講者（累計15万人＋）

1人あたりLTVの拡大余地

1. **体験型投資学習**
   無料アプリで学ぶ → 口座開設の送客収益
2. **資産形成支援**
   講座受講・FP相談の受講料／顧問料
3. **オンチェーン金融取引体験PF**
   実践段階のプラットフォーム利用（2026年内リリース予定）

同一ユーザーの投資ステージが進むほど、当社グループ内で得られる収益機会が広がる構造

NISA口座を持つ人

成人の約4人に1人

約2,821万口座（2025年12月末）※2

課題

口座を作っても稼働しない・何をすればよいか分からない層が多く「学習→実践」の橋渡しが空白

追い風

新NISA・資産所得倍増プラン

追い風

若年層の成功体験

（株式投資に取り組む20代・30代の74%が含み益）※4

※1　総務省「人口推計（令和6年10月1日現在）」より、18歳以上人口を算出。
※2　金融庁「NISA口座の利用状況に関する調査結果（令和7年12月末時点）」より、NISA口座数約2,821万口座と買付額ゼロ口座数約1,045万口座を口座数=人数とした概算。
※3　日本証券業協会「証券投資に関する全国調査（2024年度）」の株式投資意向「1年以内に購入したい」、「時期未定だが購入してみたい」割合の合計20.5%を利用。
※4　株式会社トレジャープロモート調べ（2023年春） https://www.kabunogakkou.com/media/voice_202304/

©Green Monster Inc. All rights reserved

第2成長フェーズの目標

時価総額100億円の早期実現という目標を堅持。経営体制の強化を転換点に、グループ全社で「ユーザー数×1人あたりLTV※」を最大化し、その実現を目指す。そのために重視する指標は「売上高成長率」とする。

時価総額100億円の早期実現を目指す

ドライバー指標

ユーザー数 × 1人あたりLTV

各事業・各サービス別ではなく、グループ全社で
ユーザー数と1人あたりLTVをKPIとする

アウトカム指標

売上高成長率

成長に向けて投資を進める方針のため、
単年度の利益目標以上に、
投資効果を捉えやすい売上高成長率を重視

実現の手段

3つの事業 ＋ M&A

❶体験型投資学習事業、❷資産形成支援事業、
❸金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー
事業と、M&Aによる提供サービスの拡張

さらにファイナンスにより投資原資を確保

※　LTV(Life Time Value)：1人のユーザーが、体験型投資学習・資産形成支援・オンチェーン金融取引体験プラットフォームといった複数事業をグループ内で段階的に利用することで、生涯にわたり生み出す収益(送客収益・受講料/顧問料・取引関連収益等の合計)を指す。

©Green Monster Inc. All rights reserved

3つの事業の現在地と投資方針

グループ全社で「ユーザー数×1人あたりLTV」を最大化し、売上高成長率を重視。
事業ごとの成熟度・収益性に鑑み、3つの事業はそれぞれの投資方針をとる。

	❶体験型投資学習事業	❷資産形成支援事業	❸金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業
指針	全社で「ユーザー数 × 1人あたりLTV」を伸ばし、売上高成長率を重視し、時価総額 100億円の早期実現を目指す		
役割と現在地	**グループの集客装置** 27/6期計画 1,097百万円 FXなど苦戦、株たす好調	**グループのLTV向上装置** 27/6期計画 1,288百万円 M&Aで拡大、3社とも伸長	**グループの成長ドライバー** 27/6期計画に織り込まず 第1弾を2026年内リリース、27/6期下半期に収益化開始
成長に向けた投資方針	• 営業・開発リソースを全社最適で配分し、広告宣伝費は効率を見ながら最適化 • データベース・AI活用により❷❸への送客導線を整備	• 自己資金・借入等を活用したM&Aを継続し、規模の大型化にも挑戦 • 提供サービスの拡充(アップセル)と相互送客(クロスセル)、PMI・商品開発への人材投下でLTVを最大化	• 調達予定資金14.0億円(詳細はP33)を中心に、強化した経営体制のもと施策を早期に立ち上げる(27/6期は費用先行で赤字計画) • 継続的な施策投入により既存事業とは別の成長の柱を構築
ポートフォリオの状況 売上高成長※	送客の質を重視し、減収幅を縮小 現在 減収 → 改善 → 将来 維持〜微増	M&A・クロスセルで高成長を継続 高	新たな売上高の柱として立ち上げ 現在 開発中 → 創出 → 将来 高
ポートフォリオの状況 収益率※	広告効率の最適化で「中」へ 現在 低〜中 → 改善 → 将来 中	会計上の一巡（FFC社）を経て「高」へ 現在 中 → 改善 → 将来 高	27/6期下半期から収益化 現在 開発中 → 創出 → 将来 中〜高

※　売上高成長・収益率の「現在／将来」は当社の定性的な整理。

©Green Monster Inc. All rights reserved

M&A戦略（1/2）｜実績とノウハウ蓄積

M&A実績：3件

23年1月 FP コンサルティング

24年8月 Financial Intelligence ファイナンシャルインテリジェンス

26年2月 Financial Free College

左記のほか、
26年9月にSound-FinTech社の
金融ソリューション事業を譲受
（❸の事業基盤として活用）

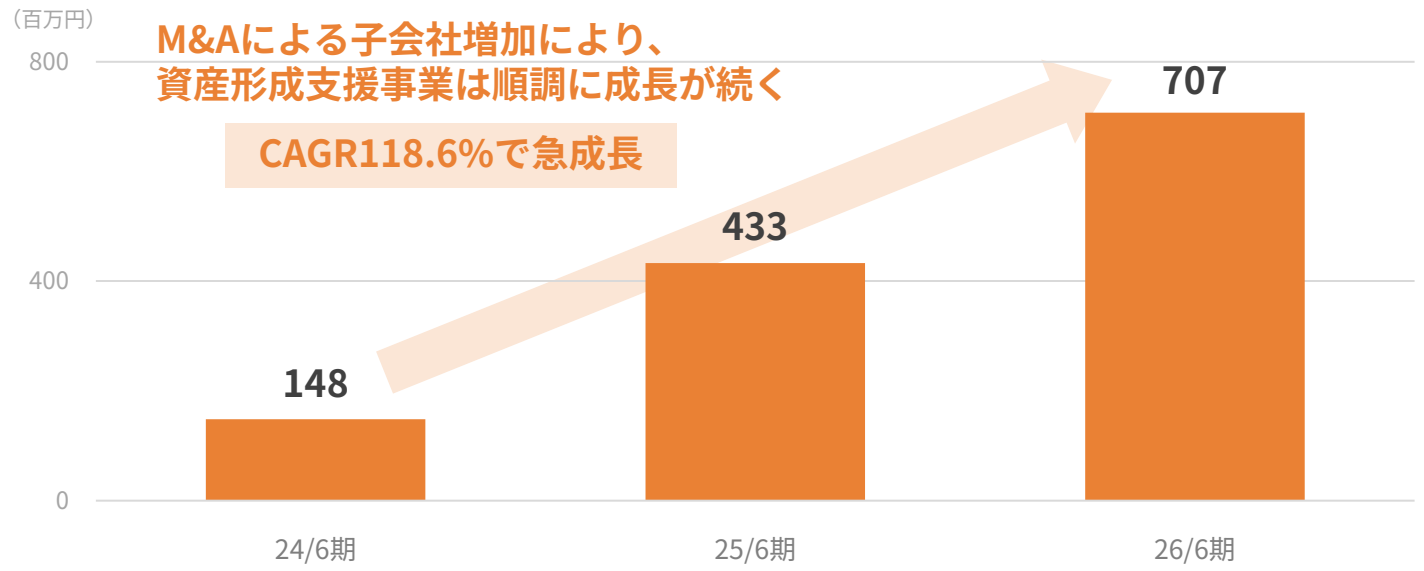
3件のM&Aを通じてノウハウが蓄積

- ターゲットのスクリーニング、検討ポイント
- デューデリジェンスに関するノウハウ
- PMIプロセスのパターン化

取組みと成果

- 広告に頼らないコラボ集客が拡大
- PMIの進展によりシナジー効果
- セミナー起点契約など拡大

● 資産形成支援事業　売上高推移



ポイント　**各社 売上高伸長・人的リソース向上**

- 上場会社グループ企業として信頼度が高まり、受注率・採用力が向上
- 本体からの人材融通による懸念解消

©Green Monster Inc. All rights reserved

M&A戦略（2/2）｜今後の見通し

ポイント　実績を通じて蓄積したノウハウを活かし、M&Aによる次の成長へ挑戦

M&A実績

3件

23年1月　FPコンサルティング

24年8月　Financial Intelligence ファイナンシャルインテリジェンス

26年2月　Financial Free College

上記のほか、
26年9月にSound-FinTech社の
金融ソリューション事業を譲受
（❸の事業基盤として活用）

今後の見通し

1.案件規模の大型化

これまでの中小規模の実績・実行体制を土台に、より規模の大きい案件も検討対象に加える

2.非財務アセットの活用

体験型投資学習事業や資産形成支援事業で培った顧客基盤やブランド、その他上場会社の信用などの非財務アセットを活かし、対象となる事業領域を拡大する

3.PMIの高度化

3件の実績で蓄積したPMIプロセスを更に磨き、グループイン後の子会社の企業価値の最大化に挑戦する

件数を積み上げる実行力を土台に、案件規模の大型化へ

件数を追う実行力 ＋ 案件規模の大型化 ＝ 成長スケールの確保

- 3件の実績で確立した実行体制・PMIノウハウを土台に、次のフェーズでは案件規模そのものを引き上げることが成長スケールの確保に欠かせない
- 件数を追う実行ペースは落とさず、大型案件にも挑戦し、規模と件数を両立させる

©Green Monster Inc. All rights reserved

ファイナンス戦略

金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業の拡大に向け、投資原資確保のため目標設定型の第三者割当新株予約権を活用※。株価上昇時の行使により企業価値の向上に応じた段階的な資金調達を図る。

第三者割当による新株予約権の発行

全て行使された場合、合計14.0億円の資金を調達予定

- **第7回新株予約権**
  - 行使可能期間　2026/7/31 ～ 2028/7/30
  - 行使価格　1,250円（2026/7/14終値の144%）
- **第8回新株予約権**
  - 行使可能期間　2026/7/31 ～ 2028/7/30
  - 行使価格　2,050円（2026/7/14終値の236%）
- **第9回新株予約権**
  - 行使可能期間　2026/7/31 ～ 2028/7/30
  - 行使価格　2,500円（2026/7/14終値の288%）

● **主な資金使途**

①	AI、ブロックチェーン及び新興インフラ技術への投資	750百万円
②	香港拠点の構築・運営に係る費用	230百万円
③	次世代金融教育に向けた新ソリューションの研究及び開発	300百万円
④	上記①及び②以外のAI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業の開発、準備、運用に係る費用	120百万円

1Q末時点の行使状況：行使なし

※　2026年7月15日「第三者割当により発行される第７回新株予約権、第８回新株予約権及び第９回新株予約権の発行並びに行使許可条項付第三者割当契約の締結に関するお知らせ」にて公表。

©Green Monster Inc. All rights reserved

04

業績及び主要KPIの推移

（Fact Book）



損益計算書及び主要KPIの推移

(百万円)	25/6期通期	26/6期通期	26/6期 四半期推移				27/6期
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高※	2,006	1,921	516	491	442	470	523
└体験型投資学習事業	1,573	1,213	358	313	266	263	249
└資産形成支援事業	433	707	146	177	175	207	273
└金融AI及びブロックチェーン・インフラストラクチャー事業	—	—	—	—	—	—	0
売上総利益	709	570	160	161	108	139	222
売上総利益率	35.3%	29.7%	31.1%	32.8%	24.5%	29.7%	42.6%
EBITDA	173	△210	2	△6	△66	△139	△46
営業利益・損失（△）	123	△276	△13	△18	△82	△162	△66
営業利益率	6.1%	—	—	—	—	—	—
経常利益・損失（△）	125	△273	△11	△18	△80	△164	△65
当期純利益・損失（△）	32	△375	△41	△27	△55	△250	△73
投資デビュー支援数	37,753	37,648	8,892	8,973	10,950	8,833	9,318
平均報酬単価	38,530	29,997	38,004	33,027	22,602	28,026	24,854

※ 売上高には、報告セグメントに含まれない「その他」（広告代理業等）の売上高を含む。26/6期1Q及び27/6期1Qは「その他」を区分して表示しているため、セグメント別売上高の合計と売上高は一致しない。
それ以外の期間は「その他」を体験型投資学習事業に含めて表示している。

©Green Monster Inc. All rights reserved

貸借対照表及びキャッシュ・フロー計算書の推移

(百万円)	25/6期末	26/6期末	27/6期 1Q末
資産合計	**1,821**	**2,015**	**2,043**
流動資産	1,463	1,474	1,419
現預金	1,185	1,090	1,043
売掛金	201	173	153
その他	76	210	222
固定資産	357	541	624
有形固定資産	37	2	2
無形固定資産	253	377	369
投資その他の資産	65	160	251
負債合計	**390**	**968**	**1,099**
流動負債	311	932	1,063
買掛金	88	61	55
短期有利子負債	10	310	310
その他	213	560	697
固定負債	78	36	36
長期有利子負債	40	30	28
その他	37	5	8
純資産合計	**1,430**	**1,046**	**944**

(百万円)	25/6期 通期	26/6期 通期
営業CF	△6	△45
投資CF	△215	△329
財務CF	△82	280
現金同等物の増減額	△304	△94
現金同等物の期末残高	1,185	1,090

※　第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

©Green Monster Inc. All rights reserved

本資料の取り扱いについて

- 本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な統計等第三者情報についての正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

- 発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。

- 当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化やお客様のニーズ及び嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

©Green Monster Inc. All rights reserved